

平成 24 年度 知床五湖地区における取組の進捗状況

トピック：安定的利用に一定の成果、知床五湖の活動から知床の活動へ

1. 例年に比して知床五湖にてヒグマが活発に活動する時期が長かったことにより、地上遊歩道の終日閉鎖日が 19 日（前年 0 日）と増え、期間中の地上遊歩道の立入認定者は 45,234 名と前年比 24%減となった。
2. 一方、知床五湖園地全体の利用者は前年比で 1 割強増加、高架木道利用者数は前年同期比 14.6%増（5～10 月）であった。高架木道の機能が発揮され、来訪者への安定的な利用機会を提供できた。
3. 知床五湖の利用のあり方協議会、登録引率者審査部会にて、平成 24 年度の総括を行うとともに新たな利用者サービスとして利用機会向上のための実験方針の承認、地域経済との連携を図るキャンペーン企画の承認が行われた。

1. 知床五湖利用調整地区制度の運用

- ・平成 24 年 4 月 20 日から 10 月 20 日まで知床五湖利用調整地区制度が運用された。地上遊歩道の利用者は 5 月 10 日から 7 月 31 日までのヒグマ活動期に 8,656 名（登録引率者を除き 7,551 名-前年比 34.6%増）、開園の 4 月 20 日から 5 月 9 日及び、8 月 1 日から 10 月 20 日の植生保護期に 36,578 名（前年比 31%減）、計 45,234 名（前年比 24%減）であった。
- ・制度期間中のヒグマ遭遇による地上遊歩道閉鎖は、ヒグマ活動期に 39 回、植生保護期に 25 回あり、地上遊歩道の終日閉鎖日が 19 日間（ヒグマ起因のもの）となった。
- ・ヒグマ活動期には登録引率者による引率、植生保護期にはレクチャー受講が行われ、ヒグマとの危険な遭遇事案は発生しなかった。
- ・制度期間中の知床五湖駐車場の利用車両台数は 64,775 台（バイク 3,642 台含む）であり、前年同期比 9%増であった。高架木道利用者数は 30.7 万人（5～10 月）と前年同期比 14.6%増となり、高架木道の機能が発揮され来訪者の利用機会の提供が確保された。
- ・駐車場利用車両台数が増えたものの、8,9 月に地上遊歩道が閉鎖する期間・時間が多かったことから利用者の滞在時間が短く、駐車場の回転率はよかった。そのため知床五湖駐車場前の渋滞発生が少なくなった（渋滞指数平成 24 年 364、平成 23 年 615）。

2. モニタリングの実施

次のモニタリングが実施された。（一部資料 4-1 にて報告）

- ・利用者カウンターの設置
- ・利用者対象アンケートの実施
- ・知床五湖駐車場渋滞状況モニタリング
- ・歩道侵食状況調査

3. 知床五湖の利用のあり方協議会の開催状況

平成 24 年 12 月 19 日、平成 25 年 1 月 28 日に協議会を開催した。

主な決定事項・討議事項

- ・平成 26 年度以降の知床五湖利用調整地区制度の運用を検討するための具体的試行として、平成 25 年度のヒグマ活動期に立入組数を増やす実験を行う方針を決定した。
- ・知床五湖利用推進・広報戦略部会（通称：ウェルカム部会 事務局：（公財）知床財団、NPO 法人知床斜里町観光協会）より企画案「くまレク見てトク キャンペーン」（後述）が提案され、了承された。

4. 知床五湖登録引率者審査部会の開催状況

平成 24 年 10 月 19 日から平成 25 年 1 月 22 日の間に計 4 回登録引率者審査部会を開催した。

主な決定事項・討議事項

- ・登録引率者登録試験のねらいと運営方法の確認を行った。
登録引率者審査部会による知床五湖登録引率者登録試験を実施し（平成 24 年 10 月 31 日に筆記試験、11 月 7 日に実地試験実施）、資格取得者の更新を含む 27 名が合格した。
- ・ヒグマ活動期の運用面の課題を整理し、平成 26 年度以降の制度運用について討議を行い、討議結果を知床五湖の利用のあり方協議会に報告した。

5. 知床五湖の活動から知床の活動へウェルカム部会の企画キャンペーン実施へ

「くまレク見てトク キャンペーン」

- ・立入申請手続きを行い、立入前のレクチャーを受ける際に発行される知床五湖立入認定証をクーポンのように使用し、地域内の登録店舗にて特典サービスを受けられるようにする企画。
- ・ヒグマとの共存を地域共通のメッセージとしてアピールし、ヒグマとのトラブル軽減を目指すと共に、利用者満足度の向上、地域内滞在時間の延長、経済波及効果の拡大を図る。
- ・平成 25 年 3 月 15 日まで協賛団体募集を募集している。2 月 25 日現在斜里町内の 6 団体から協賛申し込みがされており、今後も拡大される予定。